

## 子育て分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①子育ては多世代との連携がとても重要。
- ②子育てに悩んでいる親を専門家ではなく、地域で支える仕組みの構築が必要。
- ③地域で子供を育てていくことがいかに重要かということをアピールしていく必要がある。
- ④今後は量だけでなく、保育の質をいかに確保していくかが重要。
- ⑤子育てすることに喜びと自信を持てるよう、区全体でバックアップすることが必要。
- ⑥台東区は待機児童が多いので、働きやすい環境を整備してほしい。
- ⑦児童虐待等への対応について、今後、区がどのようにイニシアチブを取っていくのかという視点も重要。
- ⑧20年後に待機児童をゼロにできるような基本構想にしてほしい。

### 2. 20年後の望ましい姿

地域が一体となって親子の成長を支えるとともに、多様なニーズに対応した質の高い子育て支援により、誰もが安心して子供を産み育てられる環境が整っています。

また、全ての子供が、将来に夢と希望を抱き、心も体も健やかに育つことができる環境が整っています。

そして、子供達が笑顔にあふれ、のびのびと育ち、全ての区民はその成長を温かく見守っています。

## 教育分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①学校での教育だけでなく、家庭教育の視点や地域との連携が重要。
- ②台東区の持つ文化資源を教育にどのように活かすのかが重要。
- ③学校のクラスに外国人がいるのが当たり前になっているのが台東区の特徴。
- ④子供達を日本の未来を担う人材にしていく教育が大切。
- ⑤グローバルな社会を主体的に生き抜ける力を身に付けられる教育であってほしい。
- ⑥情報リテラシーを含むICTに対応した教育が必要。
- ⑦教員の育成が重要。
- ⑧できないことを一定レベルに引き上げる教育や、子供の長所をできる限り伸ばす教育が必要。
- ⑨地域において、子供だけでなく若者や障害者など全ての人の居場所をつくることが必要となっている。
- ⑩性同一性障害の方々を受け入れられる体制づくりが課題。

### 2. 20年後の望ましい姿

学校・家庭・地域の連携により、教育力の向上が図られているとともに、台東区の多彩な地域資源を活用した特色ある教育が推進されています。

そして、未来を担う子供達が、多様化・国際化する、変化の激しい社会に対応し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身に付けています。

## 生涯学習分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①生涯学習分野は教育分野とは切り離せない分野。
- ②ICTに対応した生涯学習が必要。
- ③ICTの進展により、自宅にいながらいつでも学習できるような仕組みが全国で始まっている。
- ④体を動かして楽しく遊べるように、体育館のようないつでも使える場所が欲しい。
- ⑤本に親しめず不読率が上がっているので、読書の機会を増やす必要がある。
- ⑥区民同士がお互いに学び合うような仕組みが何かできないか。
- ⑦生涯学習で学んだことを活かす仕組みを構築する必要がある。
- ⑧生涯学習を通じて子供が「台東区で生まれ育って良かった」と思えるようにする必要がある。
- ⑨インターネット環境がいかに発達しようが、図書館は居場所づくりとしての機能を果たすのではないか。

### 2. 20年後の望ましい姿

いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びやスポーツに取り組める環境が整っています。

また、学びやスポーツを通じて人と人とのつながりが生まれ、相互に高め合う仕組みが構築されています。

そして、学んだ成果を社会に活かし、生涯にわたって、誰もが生きがいのある心豊かな生活を享受しています。

## パートナーシップ分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①台東区は地域の連携が強いので、今後の高齢化への対応や担い手不足等の課題はあるものの、台東区の強みを活かす視点が必要。
- ②新しい住民と古くからいる住民が協力できる、「新」と「古」がうまく融合できるのが台東区の魅力。
- ③在住外国人が地域を支える仕組みづくりが重要。
- ④女性が活躍できる台東区であってほしい。

### 2. 20年後の望ましい姿

年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、全ての人の人権が尊重され、いきいきと生活し、様々な場面で活躍できる地域社会が構築されています。

また、支え合いを基調とする地域性が引き継がれ、多様な主体による協働が推進されることで、地域の課題解決が図られています。

## まちづくり分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①まちづくり分野では、住民参加の視点が非常に重要。
- ②まちづくりにおいて人と触れ合えるという台東区の強みを活かす必要がある。
- ③地域の人と人の繋がりが重要なので、コミュニティ強化が必要。
- ④台東区らしい景観を残しながら安全安心のまちづくりを進める必要がある。
- ⑤多様化する社会に対応するため、ユニバーサルデザイン・バリアフリーは重要。
- ⑥子供から高齢者、障害者など誰にでも優しい台東区のまちづくりが必要。
- ⑦若い世代の流入増を踏まえ、全世代が活躍できる繋がりのあるまちが理想。
- ⑧歩けるまちづくりを進めると、区の様々な分野の課題解決に繋がる。
- ⑨交通体系について、区内全体でバスだけでなく電車も拡げてもらいたい。
- ⑩電柱地中化については、防災の観点からもしっかりやってもらいたい。
- ⑪建物の耐震対策を含めて防災対策を進めていった方が良い。
- ⑫台東区だけでなく、近隣の区とエリアとしての防災まちづくりが必要。
- ⑬空き家対策は耐震性や防犯の面からもこれからの課題。

### 2. 20年後の望ましい姿

住む人、働く人、訪れる人など、多様な人々によるまちづくりが推進され、歴史、文化、産業や自然などの地域特性を活かした、活力と魅力あふれる個性豊かなまち並みが創出されています。

また、全ての人々にやさしいまちづくりや、花とみどりに囲まれた環境の整備・保全により、誰もが快適で暮らしやすい生活を享受しています。

そして、誰もが誇りや憧れを抱き、住みたい、働きたい、訪れたいと思える、持続可能な都市が形成されています。

## 防災防犯分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①ゲリラ豪雨や集中豪雨等の水害対策が大切。
- ②災害時には官民の情報連携やデータをどう活用していくかが重要。
- ③緊急医療救護所の立ち上げが課題。
- ④防災についてこれまでの町会では対応できない課題が出てくる。
- ⑤防災から減災という考え方にシフトしている自治体もある。
- ⑥技術革新を的確に捕え、災害時に活用してもらいたい。
- ⑦防災においては、区を越えた連携が必要。
- ⑧防犯カメラの設置は地域の防犯にとっても役立つ。
- ⑨犯罪が巧妙化しているので、障害者向けの教育も必要。
- ⑩大規模災害時の受援体制の確立、行政の継続性の確保がこれからは大切。
- ⑪防災では、被害をゼロにできないのでなるべく早く復旧する視点が必要。
- ⑫外国人観光客は言葉の問題もあるため別途帰宅困難者対策が必要。
- ⑬帰宅困難者の一時滞在施設が足りないので神社仏閣等との協力も必要。

### 2. 20年後の望ましい姿

自助・共助・公助の連携により、地域の防災力・減災力が向上し、災害への迅速かつ的確な対応や、しなやかにそしてすみやかに復興できる環境が整っています。

また、防犯意識の高まりや、人々のつながりと支え合い等により、犯罪に強い都市が形成されています。

そして、地震・水害をはじめとする災害や犯罪の危険から、区民や来街者の生命と財産が守られ、日々の暮らしの安全・安心が確保されています。

## 健康分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①区内の問題だけではないが、小児科や産科などの医師不足という課題がある。
- ②人口の伸びとともに出産できる病院もある程度確保しておかなくてはいけない。
- ③医療と障害、高齢のサービスの連携も課題。
- ④高齢・障害・保育を縦断できるような人材育成が重要。
- ⑤在宅療養の支援体制をどうしていくかが大事。
- ⑥台東区は自殺率が高いので、その対策は必ず必要。
- ⑦生活習慣病予防等は全世代に繋がる施策展開が必要。
- ⑧健康と福祉は切り離せない。

### 2. 20年後の望ましい姿

区民が、生活の質の向上と健康寿命の延伸をめざして、地域で互いに支え合いながら、心と体の健康づくりに取り組んでいます。

また、区民の多様なニーズに応じた、質の高い地域医療体制の整備や、健康危機への対策が更に充実し、区民の健康を支え、守るための環境が整っています。

そして、全ての区民が安心して、健やかに暮らしています。

## 福祉分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①地域包括ケアシステムで最も大切なのは本人と本人を支える家族の心構え。
- ②地域包括ケアシステムにおいては官民の情報連携が必要。
- ③これからの課題は、ケアマネージャーの育成。
- ④認知症は治らない病気なので、これとどのように付き合っていくかということが大事。
- ⑤認知症の患者が増えている。
- ⑥高齢者の住まいの問題はしっかりと対策をたてていく必要がある。
- ⑦障害者と高齢者の共生。
- ⑧各地区にサロンがあると元気な高齢者がますます元気になるのではないかな。
- ⑨準認知症予備軍の方や軽度認知障害と言われている方など、これからは治る認知症への対策も重要。
- ⑩介護現場で働く人の育成・確保が必要。
- ⑪障害者の相談支援体制強化が必要。
- ⑫健康と福祉は切り離せない。

### 2. 20年後の望ましい姿

区民相互の助け合いや多様な主体による連携等、地域全体で、区民の自立した生活と社会参加を支える包括的な支援・サービスの提供により、誰もが住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らし続けることができる環境が整っています。

そして、区民一人ひとりの尊厳が守られ、誰もが社会の大切な一員として生きがいを持って活躍し、自分らしい生活を営んでいます。

## 産業分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①地場産業を支える若い力をどのように育て、伸ばしていくかということが大切。
- ②ものづくりを担っていく人が定住して、消費者としても定着するといった形で、持続可能な経済をどのようにつくっていくのかということも非常に大事なテーマである。
- ③ネット通販のようなICTの活用による影響に、既存の小売店がどのように立ち向かっていくかという視点も必要になってくる。
- ④台東区の地の利を活かして、新たな産業を呼び込み、育てていくといった施策が必要。
- ⑤区内事業所の従業員に高齢者が多いことが課題。創業・起業支援だけでなく事業所誘致が必要ではないか。
- ⑥商業と観光が連携した施策も必要ではないか。
- ⑦クリエイティブなものが生まれるには多様性が必要だと言われている。台東区には多様性があるのでクリエイティビティを發揮する創造的産業の拠点となるよう取り組めば、将来につながる。
- ⑧産業の集積も台東区の個性として活かしていきたい。
- ⑨20年後は産業構造や働き方も変化しているので、臨機応変に時代に対応できる力を教育していく必要がある。
- ⑩産業・観光・文化の連携は必要。

### 2. 20年後の望ましい姿

次代の産業を担う人材の育成や円滑な事業承継、誰もが活躍できる環境づくり等への支援により、経営基盤の強化が図られ、企業が社会の変化に対応して持続的な成長を果たし、世界に飛躍しています。

加えて、創業・起業の促進により、台東区の特長である多様な産業の集積が一層進んでいます。

また、時代のニーズに的確に対応した、個性と魅力溢れる商店街が形成されています。

そして、ものづくりをはじめとする区内産業の更なる振興が図られて、地域経済が活性化しています。

## 観光分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①周辺の区と連携し発展していくということも必要ではないか。
- ②区民と観光客の相互理解が必要。
- ③上野・谷中・浅草など一定の所に人が集まるので、人の流れをどう分散させるかが大切。
- ④人の流れを分散させるには「歩けるまちづくり」が必要。
- ⑤外国人観光客にとって歩けるまちというのは魅力的。
- ⑥産業の集積は観光的にも面白いので、その視点から新しい観光資源を作っていくのも良い。
- ⑦観光においては、台東区に来て、何を感じて帰ってもらうのかという視点が大事。
- ⑧外国人観光客については、日本、台東区の文化を好きになる人を作ることが大事で、そのためには、台東区民が自分たちの文化を好きになって大事にすることが大切。
- ⑨観光に来た人を排除することなく温かく受け入れるホスピタリティを醸成し、文化への理解を深めることが、日本を好きになってもらうことに繋がる。
- ⑩人々が観光に望むものは、「旅先での人と人の触れ合い・交流」になっているのではないか。
- ⑪マナーの悪い外国人への対応は考える必要がある。
- ⑫観光ではこれまで積み重ねてきたものも大事。古いものを大切にしたいうえで、新しい切り口が必要になる。
- ⑬回遊性が重要なので、行ってみたいまちにすることが大事。
- ⑭産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑮観光は量から質の転換が必要。観光客を制限していくことも重要となってくる。

### 2. 20年後の望ましい姿

まちに息づく多彩な観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の創出等により、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけています。

また、観光客が安全・安心・快適に滞在し、回遊できる環境の整備や、区民のおもてなし意識の醸成、区民と観光客との文化や習慣等の相互理解が促進されています。

そして、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地が形成され、区民生活の一層の向上が図られています。

## 文化分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①区民の文化権の保障というのが一番筆頭に来る課題。
- ②文化は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会と関連が深い分野なので、オリンピズムを反映した施策を展開していく必要がある。
- ③文化の高まりを一過性のものではなく、2020年以降もきちんと続けて、産業施策とも関連させていく必要がある。
- ④区民の方々が日常的に文化に触れることができ、親しみを持てるような環境づくりが重要。
- ⑤子供のうちから芸術や文化を身近に感じて楽しめる心を持てるような政策が課題。
- ⑥台東区には伝統的な芸能や区民のための、国立西洋美術館や東京都美術館をはじめとする施設が揃っている。そうしたものを活用するなど、台東区にしかできない文化施策を考えるべき。
- ⑦日本文化・伝統に対する外国人の憧れは強い。着物や帯、草履など台東区には多くある。文化を大事にすることは、産業を大事にすることに繋がるので、文化と産業を一緒に考えて欲しい。
- ⑧産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑨日本文化の良き理解者を増やしていくことが重要。
- ⑩台東区が日本の顔になるという姿勢を示すことが重要。

### 2. 20年後の望ましい姿

江戸の昔から、先人たちが築いた多彩で粋な文化が、将来にわたって継承されるとともに、多種多様な文化との融合により、新たな文化が創出されています。

また、誰もが文化に親しめる環境が創出されるとともに、全ての区民が様々な文化を理解し受け入れ、心豊かな生活を送っています。

そして、文化の力が様々な分野に活かされて、都市の魅力と活力が向上しています。

## 環境分野 20年後の望ましい姿

### 1. 審議会・小委員会での主な意見

- ①都のごみ分別方法は複雑で、戸別収集でごみは減っているというが、地域の現状を見ると民泊利用者等の分別の仕方がひどい。20年後を見越した際、この問題はどうかしなければならぬので検討していただきたい。
- ②個人の生活ごみは減少しており、一定の成果をあげている。問題は事業系ごみで、その中でも生ごみと紙で8割を占めている。この対策を行えば、ごみは大きく減る。
- ③資源回収量は気にせず、むしろ資源回収率に着目すべき。
- ④資源回収量を増やそうという目標を立てている自治体がほとんどだが、このことについては清掃一組を含め、23区等でも見直していく必要がある。
- ⑤区民・事業者の意識を高める制度設計を行政が提供することが重要。
- ⑥花や緑の創出では、台東区は重点的にバックヤードを綺麗にしていったら良いのではないか。
- ⑦レジ袋の有料化のように、環境保全への効果が高い経済的手法の活用を考えると良い。ゴミの有料化も検討してほしい。
- ⑧建物を高層化して残った土地に森を作るといった取組みも考えていくべき。

### 2. 20年後の望ましい姿

区民・事業者・来街者が、環境問題に積極的に取り組むことで、低炭素社会や循環型社会等の形成が図られ、地球環境に優しい社会への転換が一層進んでいます。

また、地域が一体となった花やみどりの創出、水辺環境の保全により、上野の山や隅田川をはじめとする豊かな自然が次世代へ継承されています。

そして、誰もが住みよい、潤いのある快適な都市環境が形成されています。